

ここに注目！ 近隣する商店街との連携強化により、各種イベントを開催し、被災した中心市街地商店街の復興を図る。



### ポイント

東日本大震災後、隣接する6商店街、5団体と「いわて宮古街なか商人グループ」を構成し、108事業者の営業再開のため、幹事組合として中心的な役割を果たし、中心市街地商店街の復興に貢献している。

また、被災者への供給物資等を地元商店街から調達することで、被災者と商業者支援を両立する地元内経済循環型震災支援地域通貨「リアス通貨」を発行し、全国各地の個人・団体から支援申込を受けて震災遺児へリアス通貨を贈り、また観光客や視察者がリアス通貨を購入して土産物を買うなど、新たな復興支援モデルとして実施している。

### [商店街概要及び取組の背景]

#### 街の賑わい再生の試行錯誤

宮古市末広町商店街は、昭和初期の鉄道駅設置とともに商店街が形成され、宮古駅から徒歩3分の長さ350メートル幅員10メートルの歩車道の区分のない通りに、昭和の香りを色濃く残す中小の店舗が連なり、長い間地域の商業経済の拠点を担ってきた。

集客力のある大型店や公共施設がない中、空き店舗を活用した交流施設「すえひろ亭」を中心に、地域イベントを実施。隣接商店街や地域団体と連携し、共同販促・集客事業を実施するなど、地域型の商店街として賑わいを創出してきた。

しかし近年は、「歩道がない・休憩施設が少ない」など必ずしも人に優しいつくりとはなっていない。また、欲しい商品が揃わないことや、若年層・家族連れが興味を引くイベントが足りないこと、イベントの来街者数に比べて来店者が少なく、共同販促事業も必ずしも売上に結びついていないことも課題として残った。



復興を目指し、活気を取り戻す商店街

### [取組の概要・効果]

Plan・Do

#### 目指せ! 「地域の交流連携の拠点づくり」

地域商店街活性化法に基づく事業計画を策定して、「憩いとゆとりのある街・地域の交流連携の拠点」づくりをめざして、もう一つの交流施設「りあす亭」を設置運営し、寄席などのイベントや地域団体の活動・交流の場として活用し、また農林漁業者と「宮古の秋はうまいぞ! 大会」、福祉団体と「はあとふるフェスタ」、地元商業高校と「チャレンジショップ」などの交流連携イベントを継続開催している。さらに他の商業団体と「街なか商人ガイドブック」「一店逸品」「100円商店街」などを共同実施して連帯を強化し、店と街の魅力向上とPRに努めて、来店・売上増を図っている。

### [効果の評価と改善策の実施等]

Check・Action

#### 「りあす亭」を拠点にイベントと研鑽の実施

大震災で「すえひろ亭」は閉鎖したが、残った「りあす亭」は年間150回・延べ1万人以上に活用されて地域コミュニティの交流拠点となっている。震災後始めた年2回の「復興市」は毎回1.5万人前後の新たな来街者を集め、成人式に併せて実施する「商店街レッドカーペット」と共に、地域の絆を深めて復興再生をめざす新た

なイベントとして定着している。「一店逸品」「100円商店街」は、ワークショップを積み重ねるなかで新たな発想と参加者間の連帯感が生まれ、売り上げを伸ばす店が増えて着実に成果を生んでいる。

また、商店街間の連携は「宮古街なか商人グループ」としてグループ補助事業の受け皿となる組織結成に繋がり、地域全体の活性化が促されている。

#### [実施体制]

### 地域のみんで取り組む商店街づくり

商店街の企画は、毎月の理事会と女性や若手も多く加わった委員会で立案し、作業は出来るかぎり商店街総出で行っている。世代交代を終えた青年部はメンバーが増えて外の地域団体との交流・連携を積極的に展開している。

また、当商店街が中核となり中心市街地商業7団体ほかで結成した「宮古街なか商人グループ」は、市や商工会議所もオブザーバーとして参加する毎月の幹事会で「復興市」「一店逸品」「100円商店街」等の連携事業を推進している。福祉・文化などの市民団体・ボランティアとのネットワークも構築され、イベント実施時には積極的な参加協力が得られている。

#### 基本データ

所在地：岩手県宮古市末広町

会員数：68名

店舗数：58店舗

関連URL：<http://www2.ocn.ne.jp/~akindo/>



成人式にあわせた「商店街レッドカーペット」



#### キーパーソン

宮古市末広町商店街振興組合  
理事長 佐香 英一

### 商店街は大きなコミュニティ施設

「商店街は大きなコミュニティ施設」とは、県立病院移転等で来街者が激減し、街の近代化に迫られていた平成4年に、当時の商店街青年部を中心に「商店街長期ビジョン」策定に取り組み、全国各地の視察や研修会を重ねて自ら書き上げた報告書の表題です。

視察で大型店の撤退を目の当たりにして、「街の核は必ずしも大型店ならず」と悟り、また集客力のある大型公共施設を羨みながら、商店街自体が持つコミュニティ機能に気づき、これからの商店街が生き延びていくには、コミュニティ機能の充実こそが最大のポイントで

あり、地域とより密着していかなければならないということから達した結論でした。

その後様々な事業を通じて、地域の生産者や福祉・文化団体・学校等との交流連携を重ねて、ようやく手ごたえを感じられるようになってきたときに、東日本大震災の大津波が私達の商店街を襲いました。

### 商店街は震災復興拠点の一つ

しかし、私達はいち早く店と商店街を復旧させ、商店街が長年培ってきた地域のネットワークを通じて、様々な団体やボランティアの方々、地元行政そして隣接商店街と一体となって「復興市」等を開催して、商店街から元気を発信し、地域の復興再生に取り組んできました。

私達の商店街は地域のコミュニティのみならず復興の拠点ともなったと思っており、これからも地域に根差した活動を続けていきます。